



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 J TOWER

コード番号 4485 URL <https://www.jtower.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 敦史

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO コーポレート本部長 (氏名) 中村 亮介 TEL 03 (6447) 2614

四半期報告書提出予定日 2021年11月11日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	1,899	9.9	757	20.2	231	23.3	197	12.5	128	△36.0
2021年3月期第2四半期	1,728	57.7	630	101.5	187	-	175	-	200	-

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 227百万円 (15.4%) 2021年3月期第2四半期 197百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	5.92	5.88
2021年3月期第2四半期	9.74	9.54

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額+長期前払費用償却額

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	24,510	14,633	59.7
2021年3月期	16,745	7,137	42.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 14,633百万円 2021年3月期 7,137百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2022年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2022年3月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	31.4	1,590	17.8	260	△37.9	180	0.6	100	△80.3	4.59

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	21,985,218株	2021年3月期	20,832,872株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	16,127株	2021年3月期	84株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	21,633,894株	2021年3月期2Q	20,541,845株

(注) 当社は株式給付信託（J-ESOP）制度を導入しており、当該信託が保有する当社株式を、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会社方針の変更)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、2021年7月に新たに策定した企業ビジョン「日本から、世界最先端のインフラシェアリングを。」のもと、従来は携帯キャリア各社単独で行われてきた携帯基地局関連インフラに係る装置、アンテナ、工事、構築物等の設備投資を当社で一本化し、各社へシェアリングする事業を国内外で展開しております。

当社グループは、創業以来、国内におけるインフラシェアリング事業者のパイオニアとして、大型施設内の携帯インフラのシェアリングを行う国内IBS事業（注1）を推進してまいりました。国内通信市場においては、各携帯キャリアの5Gサービスの開始、第4の携帯キャリアの市場参入、携帯電話料金の値下げ等を背景にした設備投資効率化ニーズが高まっております。当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言の発令及びまん延防止等重点措置の実施がなされましたが、工事の中断や物件のオープン時期の延期等によるサービス開始への影響は限定的であり、リモートワークの実施や事業体制の強化により、導入物件数を着実に増加させてまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の国内IBS事業においては、28物件への新規導入が完了し、累計導入済み物件数は255件となりました。

また、更なる企業価値の向上に向けて、新規事業であるタワー事業（注2）の立ち上げや国内IBS事業における5G対応共用装置を用いたインフラシェアリングの営業・建設活動に注力してまいりました。タワー事業においては、新たな取り組みとして、西日本電信電話株式会社が保有している通信鉄塔71基のカーブアウト（買取）に係る基本契約を締結しました。順次資産の引き渡しを行っていくとともに、本取り組みを契機に、他の通信事業者を含めたカーブアウトの取り組みについても拡大を目指してまいります。さらに、当社が代表事業者となり、東京都と西新宿エリアにおけるスマートポールの面的設置に関する協定を締結しました。第3四半期連結会計期間以降、同エリアにおいて新型スマートポール20基を設置し、各種実証事業等の取組みを行うとともに、スマートポールの他地域への展開を見据えたビジネスモデルを構築してまいります。

東南アジア地域におきましては、ベトナムにおいて、前連結会計年度にTHIEN VIET COMPANY LIMITEDと買取契約を締結した63物件におけるIBS資産について、順次契約移管手続きを進めており、当第2四半期連結累計期間の海外IBS事業における累計導入済み物件数は178件となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,899,086千円（前年同四半期比9.9%増）、営業利益231,011千円（同23.3%増）、経常利益197,193千円（同12.5%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に計上した株式会社ナビックの持分減少に伴う持分変動利益の反動により128,158千円（同36.0%減）となりました。

なお、当社グループは通信インフラシェアリング事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(注1) IBS事業

In-Building-Solutionの略称であり、商業施設やオフィスビル等の大型施設内のアンテナ、配線、中継装置等の携帯インフラを、当社が共用設備を用いて一本化し、携帯キャリアへシェアリングを行う事業のことをいいます。

(注2) タワー事業

屋外における鉄塔・コンクリート柱・ポール・アンテナ等の携帯インフラを当社が共用設備を用いて一本化し、携帯キャリアへシェアリングを行う事業のことをいいます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は24,510,826千円となり、前連結会計年度末に比べ7,765,459千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が7,466,539千円、機械装置及び運搬具が346,863千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は9,877,221千円となり、前連結会計年度末に比べ269,019千円増加いたしました。これは主に導入済み物件数の増加に伴い、契約負債が477,161千円増加したこと、装置費及び工事費の支払により、未払金が130,026千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は14,633,605千円となり、前連結会計年度末に比べ7,496,440千円増加いたしました。これは主に新株式の発行により資本金及び資本準備金がそれぞれ3,684,076千円増加したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益128,158千円を計上したこと、主に株式給付信託（J-ESOP）制度の導入に伴い自己株式が99,367千円増加したこと、円安の影響により為替換算調整勘定が99,497千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は59.7%（前連結会計年度末は42.6%）となりました。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ7,365,731千円増加し、15,355,877千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は1,328,295千円(前年同四半期比45.9%減)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益190,925千円の計上、減価償却費510,669千円の計上、契約負債の増加476,670千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は1,051,645千円(前年同四半期比21.7%減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出983,999千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は7,086,526千円(前年同四半期は501,866千円)となりました。これは主に、株式の発行による収入7,335,549千円、自己株式の取得による支出99,367千円、リース債務の返済による支出136,324千円等によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想は、現時点において、2021年5月14日に決算短信で公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,398,235	15,864,775
売掛金	397,015	391,010
その他	160,032	141,305
流動資産合計	8,955,283	16,397,091
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	5,433,205	5,780,068
その他(純額)	1,535,492	1,496,433
有形固定資産合計	6,968,697	7,276,502
無形固定資産		
のれん	329,143	339,539
その他	252	845
無形固定資産合計	329,395	340,385
投資その他の資産	491,990	496,848
固定資産合計	7,790,083	8,113,735
資産合計	16,745,366	24,510,826
負債の部		
流動負債		
買掛金	129,417	148,462
未払金	851,664	721,638
1年内返済予定の長期借入金	210,000	210,000
契約負債	7,156,455	7,633,617
その他	395,364	441,532
流動負債合計	8,742,901	9,155,249
固定負債		
長期借入金	210,000	180,000
その他	655,299	541,971
固定負債合計	865,299	721,971
負債合計	9,608,201	9,877,221

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,300,871	7,984,947
資本剰余金	2,462,195	6,146,271
利益剰余金	523,956	652,114
自己株式	△350	△99,717
株主資本合計	7,286,673	14,683,617
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△149,508	△50,011
その他の包括利益累計額合計	△149,508	△50,011
純資産合計	7,137,165	14,633,605
負債純資産合計	16,745,366	24,510,826

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	1,728,489	1,899,086
売上原価	837,802	881,668
売上総利益	890,687	1,017,417
販売費及び一般管理費	703,370	786,405
営業利益	187,316	231,011
営業外収益		
受取利息	14,892	10,326
その他	236	1,026
営業外収益合計	15,128	11,352
営業外費用		
支払利息	12,517	12,297
持分法による投資損失	14,367	—
株式交付費	—	32,602
その他	242	270
営業外費用合計	27,127	45,170
経常利益	175,317	197,193
特別利益		
持分変動利益	99,979	—
特別利益合計	99,979	—
特別損失		
固定資産除却損	—	6,267
特別損失合計	—	6,267
税金等調整前四半期純利益	275,296	190,925
法人税等	75,139	62,767
四半期純利益	200,157	128,158
親会社株主に帰属する四半期純利益	200,157	128,158

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純利益	200,157	128,158
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△6,208	97,702
持分法適用会社に対する持分相当額	3,350	1,794
その他の包括利益合計	△2,857	99,497
四半期包括利益	197,300	227,655
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	197,300	227,655
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	275,296	190,925
減価償却費	415,572	510,669
のれん償却額	26,531	15,005
株式交付費	—	32,602
持分変動損益(△は益)	△99,979	—
売上債権の増減額(△は増加)	13,169	22,054
仕入債務の増減額(△は減少)	△30,639	14,655
未払又は未収消費税等の増減額	127,879	21,855
契約負債の増減額(△は減少)	1,706,102	476,670
その他	40,632	80,485
小計	2,474,565	1,364,924
利息の受取額	17,894	11,935
利息の支払額	△12,517	△12,297
法人税等の支払額	△26,027	△36,266
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,453,914	1,328,295
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△305,602	△473,730
定期預金の払戻による収入	220,610	406,856
有価証券の償還による収入	51,096	—
有形固定資産の取得による支出	△1,282,982	△983,999
非連結子会社株式の取得による支出	△26,030	—
その他	—	△771
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,342,909	△1,051,645
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△45,000	—
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△30,000
株式の発行による収入	19,170	7,335,549
自己株式の取得による支出	—	△99,367
非支配株主からの払込みによる収入	99,979	—
セール・アンド・リースバックによる収入	258,319	16,667
リース債務の返済による支出	△130,603	△136,324
財務活動によるキャッシュ・フロー	501,866	7,086,526
現金及び現金同等物に係る換算差額	△436	2,555
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,612,435	7,365,731
現金及び現金同等物の期首残高	6,851,458	7,990,145
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△117,984	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,345,909	15,355,877

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年5月31日付で、KDDI株式会社及び日本電信電話株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ3,675,060千円増加しました。また、新株予約権（ストックオプション）の行使に伴い、資本金及び資本準備金がそれぞれ9,015千円増加しました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が7,984,947千円、資本準備金が6,805,777千円となっております。

また、当第2四半期連結累計期間において、株式給付信託（J-ESOP）制度の導入により、当該信託が当社株式を取得したことに伴い、自己株式が99,046千円増加しております。さらに、単元未満株式の買取請求による自己株式の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が99,717千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

当社は従来より、インフラシェアリング関連の財またはサービス等、一定の期間にわたり充足される履行義務に関しては、顧客との契約に基づく役務提供期間に応じて収益を認識しているため、収益認識会計基準等の適用による当第2四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受収益」及び「固定負債」に表示していた「長期前受収益」のうち、顧客との契約から生じた残高については、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受収益」2,318,750千円のうち、2,295,242千円及び「固定負債」に表示していた「長期前受収益」4,985,825千円のうち、4,861,212千円は、「契約負債」7,156,455千円として組み替えております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結累計期間等に係る四半期連結財務諸表への影響はありません。

(重要な後発事象)

(関連会社株式の譲渡)

当社は、2021年10月21日に持分法適用関連会社であるGNI Myanmar Co., Ltd. について、当社が保有するすべての株式を共同出資者であるGlobal Network Incに対して譲渡いたしました。その結果、GNI Myanmar Co., Ltd. は当社の持分法適用関連会社ではなくなりました。

なお、本株式の譲渡が2022年3月期の連結業績に与える影響は軽微です。